

第9回 阿賀川自然再生モニタリング検討会 議事要旨

開催日時：令和8年3月18日（水） 14：00～15：30

場 所：阿賀川河川事務所 1階会議室

議事次第：1. 開会

2. あいさつ

3. 議事

(1) 中流域自然再生事業計画について

- ・ 中流域事業概要
- ・ 中流域の事業目標について
- ・ 短期モニタリングについて
- ・ 中流域施工条件について
- ・ 佐野目地区整備計画
- ・ 真宮地区整備計画

(2) 阿賀川河川事務所における外来種対策等の取り組みについて

4. 閉会

○議事

(1) 中流域自然再生事業計画について

(委員 A)

- 真宮地区整備計画の川幅水深比について、 $B/H > 300$ になると砂州が単列から複列になるとあるが、Bは川幅だと分かるがHは平均水深なのか、又は深掘れ局部の水深で対応するのか、評価基準を説明してもらいたい。

(事務局)

- 川幅水深比には定義があつて、平均年最大流量時の平均水位を基準として、一番深くなっている箇所をHとしている。

(委員 A)

- 埋め戻せばHが減りB/Hが改善することがわかった。

(委員 B)

- 佐野目地区では新しく水路を設置し、掘った土砂を両側へ盛る。
真宮地区では今ある古い水路を残し、その脇に土砂を盛るイメージとなるが、今までそのようなケースはあまりなかったと思うが、水路の脇は土手の

ような形となるイメージでよいか。

(事務局)

- 発生土に関しては、周辺を敷均し、深掘れしている箇所へ入れ、基本的には場外へ持ち出さない想定としている。

(委員 B)

- 了解した。

(委員 C)

- 佐野目地区について、クリークと称する新しい水路を作るという事であるが、この場所には重要な植物が沢山あると事務局から説明があった。この場所では、令和6年に研究会の方々が勉強会を開催している。この場所を選んでいる理由は、道の駅が近くにあり、非常に阿賀川の水辺に親しまれている環境だからである。また、既にこの場所には重要種があることを前提に、地域の方や教育委員会も参加する観察会や学習会も行われている。そこにクリークを作るという事で、重要種が集まっているこの場所を改変しようとしている。令和8年度の非出水期から、種子の移動や種そのものの移植といった保全対策を行うと事務局から説明があったが、その結果は公表されるのか。

(事務局)

- 自然再生事業の中で調査する。その際に重要種の場所等を確認・記録し、モニタリングについて検討する。これらを取りまとめた後にこのモニタリング検討会の中で議論した上で公表をしていきたい。公表の出し方については、当委員会でも議論をいただいた上で出す形になっていくかと思うが、重要種の盗掘等の懸念を考慮し、なんらかの形で公表をしていきたいと考えている。

(委員 C)

- 了解した。
この場所には環境省や福島県で指定しているような重要種があるとの認識の上で、尚且つ、工事によってこの場所を改変し、工事の結果については国で公表を行う。これについて約束できるか。その意味で工事をするという認識

でよいか。

(事務局)

➤ そうです。

(委員 C)

➤ 了解した。

公表する場合、早くで令和9年あたりの結果をだすのか。

(事務局)

➤ 工事工程について、今年はまだ予算が通っていないが、通った場合は令和8年の秋に工事に入りたいと考えている。調査も同時で入っていきたい。

(委員 C)

➤ 了解した。

(委員 D)

➤ 植物関係の重要種について、作業が終わってから公表するという形で事務局より説明があったが、工事が入る前に関係者等の現地立ち会いや意見交換などは行わないのか。

(事務局)

➤ 実施しようと考えている。

今のところ具体的な日時やメンバーが決まっていないので、決まり次第アナウンスしたい。事務所の業務受注者や詳しい方にも参加していただき、植物・生物関係に詳しい先生にも現地を見ていただき、ご指導をいただきながら事務所としても頑張りたいと考えているので、その節にはお力添えをいただきたい。

(委員 D)

➤ 了解した。

この場所では事業的な形で子供達と接してきたとおり、説明のあった重要種を見ていて、もったいないと思っていたので、そういったアドバイザー関係の方々に見ていただいた方がより良く残せるのではないかと考えている。

(委員 E)

➤ 埋蔵種子について、沢山ある中でそれを辺りへどう移動・移植するのかまだ決まっていないとの説明だが、関係者の意見も参考にして、クリークの出口

付近が良いのか、クリークの周辺にワンドを作って、種子を流れにくくする、浅瀬を作る、ツルヨシが早く繁茂できるようなものを作るなどといった考えだと思うが、この場所は河床勾配が比較的急なところであり、工事は大変だと思うがよろしく願います。

(事務局)

- 貴重なご意見ありがとうございます。
箱庭のような整備ではないと思っている。コンセプトしてあるのは外力を引き込んで攪乱を誘発し持続的に阿賀川らしさを維持する事を最終的な目的としている。工事の前後だけではなくその後のモニタリングも必要と思っている。そういった意味では阿賀川を長く見ている皆さんがいらっしゃるので、ご意見を聞きつつ、工事業者に上手に伝え理解してもらい、道の駅が前面にあることで、注目されているという事も意識しながら工事をしていきたいと考えているのでご指導をお願いしたい。

(委員 E)

- 了解した。
こういう貴重種がある場合において、事前検討・実施中・施工後も行政と工事管理者だけでなく、地元の方々も含めて検討を進めていく。実施前から施工後に至っての過程においても地元や関係者等のアドバイザーの意見も踏まえながらやるというのは、おそらく日本でもあまりない例だと思う。事務所には期待したい。

(委員 F)

- 佐野目地区は普段から我々も一番良く見ている場所である。調査範囲内の最下流側にワンドやたまりがあり、ここは我々も注目している。攪乱された後の施工後もここは是非残していただきたい。

(事務局)

- 佐野目地区は土量が多く大々的な工事となる。予算も限られると想像しており、絵に描いた通りの工事ができるかというのは別次元の話となるかと思っている。その場合は、優先順位を決めて、少しずつ目標に向けて事業を実施していきたい。下流側のワンドは確かに非常に大事と認識している。
また、発生した土砂を利用して坂路や進入路、駐車場等のようなものを作るとかそういう工夫ももしかしたらできるのではないかと思っている。いわゆ

る生物環境を優先する場所、利用する場所等のメリハリをつけつつ、工事を進めていきたいと考えている。

(委員 G)

- 佐野目地区でウケクチウグイ稚魚が確認されたと報告があり嬉しく思っている。稚魚が安心して住めるワンドのような場所は存置を是非お願いしたい。稚魚がいるということは、近辺で産卵していると思うがその情報がどの程度集まっているのか。真宮地区の報告ではウケクチウグイの情報がなかったもので、佐野目地区が重要となってくると思っている。

令和7年度の水辺の国勢調査結果を見たが、ウグイの数が大きく減ってきている。その理由は自然環境なのか外来種の影響なのか、色々なことが考えられるが、一つは産卵場所が機能しているかどうかにある。ウグイとウケクチウグイは違うような気がするが、間違いなく産卵場で卵を生んでいると思う。この近辺の産卵場の状況、それによつては影響されないような工事の仕方をお願いしたいと思う。

(事務局)

- 掘削した土砂を深掘れ箇所へ埋めるにあたり、埋め戻すという表現を使っているが、実際はほぐした状態に入れる。掘削箇所もなるべくほぐした状態にし、攪乱が入りやすい状態としたいと考えている。

通常の土木工事では、重機で締め固めるイメージがあるが、今回の掘削や盛土工事では耕すようなイメージとなる。堅くなっている河床を耕して自然の流れを誘発しつつ、できればその場所が産卵場所へ移行していくという事も一つの目標としていきたいと思っている。

(委員 G)

- 了解した。

(委員 E)

- ウグイの産卵について、昔に漁協関係者と間瀬の場所を調べた事がある。流れや石の粒径も必要だが、伏流水が出ている場所でなければウグイは産卵しない。阿賀川の伏流水箇所や経年変化などは調べようもないと思うが、伏流水の把握は非常に重要だと思っている。

(事務局)

- 今回、イトヨの調査を行う予定となっている。その際に伏流水も調査する。冬場になっても、伏流水は10℃位の水が出てくるので赤外線カメラで撮るとだいたい分かると思う。ただボリュームは分からなく湧いている現象だけとなる。河川水辺の国勢調査データや環境モニタリングの中でもデータが取れば比較していきたいと考えている。

(委員 E)

- 了解した。

(委員 F)

- 昆虫の指標としてカワラバッタがあるが、調査に一度立ち合わせていただいた。

講じるところもう一つ、指標種の昆虫という表現になされていたので、カワラバッタ以外何かと思ったが、クロナガオサムシだった。この種類は、昔に会津高校の生徒が調査・研究して全国大会で発表していたことを思い出していた。

もう一つ、今お出しになったこの植物観察の案内の事務局の峰先生は、会津生物同好会に入っている。峰先生が神指の方でハンゲショウをずっと観察しながら保全されていた。ある時、補助整備が始まり、私の方に連絡が来て、市と県に連絡したら、すぐ動いてくれた。そのまま保全はできないので、近くの神社のところに移植した。そしてそれが分かるように、地域の町内会と同好会でちょっとした看板を立てて今見守っている。今度は国ですから、適切に対応してくれるのだろうなと思いながら、こういう調査をずっとしている人がいて、そういう経験があるので、今なさると聞いて、安心したので是非よろしくお願ひしたい。

(事務局)

- 指標種の話があったが、指標種を置いているのは事業評価を数値で表す際に、カワラバッタ、イトヨなどが一番有名で、可否を数字で表すために指標種という言葉遣いをしている。ただ、実際の昆虫の調査は先ほど質問にあったオサムシも含めて一通り全部調べて、居た種や特徴を抑えているので、そこについてご指導いただきたい。特に真宮のところは大きく環境が変わると考えている。樹林に住みがちな生き物が減って、礫河原系の生き物が増えてくることが、昔の阿賀川らしさという原点に帰るような工事をしていくこと

になるので、結果が出た際には、そういう見立てで見ていただき、評価をしていただきたい。

(委員 G)

- シンシドリやコチドリなどが調査によって、礫河原の方にある程度の数が住んでいることは分かった。ただ先ほどお話があったように、藪や高木などの環境が好きなものも、みんな仲良く繁殖できるような環境だとありがたい。また、阿賀川の川幅は広く、人がそれほど入らないため、鳥に圧力があまりかからず、繁殖には良い。重要種が6種類ほどここに挙がっているが、他の鳥も無事巣立つことができればいい。工事は、繁殖する夏場ではなく早い時期や秋過ぎに行ってほしい。ただ冬場だと、先ほど白鳥が集まっている場所があるという話があり、そういった白鳥や鴨が冬場は今後とも見られるという環境であってほしい。また、工事による植物の移植については、その場所でないと難しい。ただ、これが今ここに生えているということは、水が普通に流れている場所であるため、水かさが増えていけば良いが、乾燥してれば生えないので、工事の仕方を考えてやってほしい。

(事務局)

- 先ほど映像で見ていただいたとき、やはり樹林化が進んでいて、昔の阿賀川らしさが少なくなっている。ただ樹林化することによってカッコウやオオヨシキリなどが、多数入ってきており、そういった種からしてみれば、伐採の影響で住みづらくなる。一方で、礫河原がうまくできればシギチドリやイカルチドリ、コチドリなどが、入りやすくなるため、バランスが重要だと思う。このような委員会の場で合意形成しながら、どの程度が本来の阿賀川らしさなのかというのを議論しながら、このデータを公表しつつ進めていきたい。

(2) 阿賀川河川事務所における外来種対策等の取り組みについて

(委員 A)

- 例としてアレチウリを出されているが、工事や新しい土壌ができた時に、日本の在来種と比べてどうしても出てきやすい性質はある。今年度、私の方で調べさせてもらった排雪地では、案の定アレチウリが出てくる。それは最も発芽しやすいからだ。

また、アレチウリもそうだが、問題はニセアカシアで、これを対処しないと、いつの間にか河原はヤナギ群落でなく、ニセアカシアの林になる。その配慮をお願いしたい。

(事務局)

- その後の管理が非常に大切だということを理解した。

以上